

事例

地域の魅力を、農業を通じて発信 ～古くから伝わる在来品種がつなぐ食育活動～ (第8回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞)

すづき よしあき
鈴木 芳昭 (千葉県)

千葉県君津市^{きみつ}を中心に、学校給食を通して子供たちに地場産食材の味を知ってもらおうと同時に、農業体験を通して作物を育てる喜びや苦労を伝えています。「地域の子供たちには市内で栽培した農産物を食べてもらいたい」という気持ちで開始した学校給食への農産物供給をきっかけに、地域の小学生たちが農業体験に訪れるようになり、活動が広がっていきました。

学校給食への農産物供給や、地域の農業体験受入れを30年以上継続してきた中で、関係機関と共に君津市農業農村活性化協議会の設立に至りました。協議会の設立により、個人の活動だけでなく、関係機関とも連携した組織として継続的な活動にも取り組めるようになり、より幅広い地域、世代への食育推進につながりました。

近年は、近隣における活動のみにとどまらず、県外の教育機関とも連携して行っています。具体的には、神奈川県にある川崎市^{かわさき}立川崎高等学校附属中学校と連携し、君津市に古くから伝わる在来大豆である「小糸在来^{こいとざいらい}®」を用いて、体系的な食農活動に取り組んでいます。この取組では、座学による知識の習得から、播種収穫の実習、また収穫した大豆を用いたみそづくりや学習発表会まで、年間を通して播種から加工までの全ての流れを学ぶことができます。

今後は、農協観光や君津亀山青少年自然の家等との連携を図り、収穫体験や農業体験等を拡充させていくとともに、引き続き、県内外の方に君津市の魅力を、農業を通じて知っていただく取組を続けていきます。



農業体験の様子



中学校におけるみそづくり体験

第5章

生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等